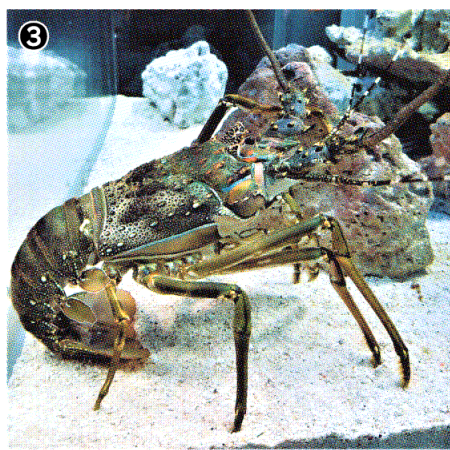
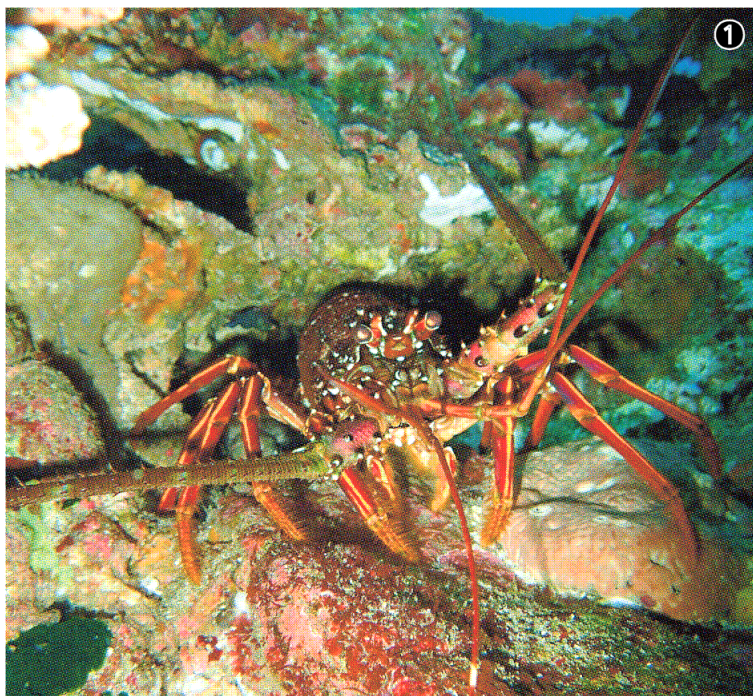


①体の色が赤いイセエビ②ニシキエビ。脚にまだら模様があり、体はカラフルです③ケブカイセエビ④写真では見えづらいですが、ケブカイセエビは腹部（丸で囲んだ部分）の節の間に短い毛が密生しています

お正月にはさまざまな縁起をかっぎます。とりわけタイやエビは欠かせない存在です。みなさんも年始に、おせち料理などで食べたのではないのでしょうか。

イセエビをモチーフにした正月飾りもあります。こうした風習は、江戸時代にはすでに普及していました。硬い殻を甲冑に見立て、武運や厄よけを祈るほか、曲がった姿から「腰が曲がるまで健康で長生きできますように」という願いが込められているようです。

イセエビの仲間は世界で24種が知られ、かこしま水族館では4種を展示しています。共通点は、2種類の



イセエビ 縁起物にも多様な仲間

触角が1対ずつあり、大人になると泳がず海底を歩き回る。短いのが第1触角、竜のひげのように長く伸びているのが第2触角です。でも少しづつ違う点もあります。例えば、ニシキエビは体の色が鮮やかで脚にまだら模様があります。ケブカイセエビはその名の通り、腹部に毛が生えています。目の周囲のだいたい色と水色、第1触角のしま模様なども特徴です。

イセエビは鹿児島島の海にもいますが、南へ行くほど少なくなり、代わりにケブカイセエビなどの種が増えます。海水温や海流の影響ではないかと言われています。

いずれも夜行性です。日中は岩の隙間など暗いところに隠れ、夕方ごろから海底をノソノソ動き回ります。威風堂々たる見た目の印象とは裏腹なその様子は、布団から嫌々出てくる朝の自分の姿とも重なり、何だか一方的に共感します。（海獣展示係 獣医師・濱野剛久）